

令和5年ホヤ類調査結果速報 No. 3

令和5年9月27日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

【アドレス：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>】

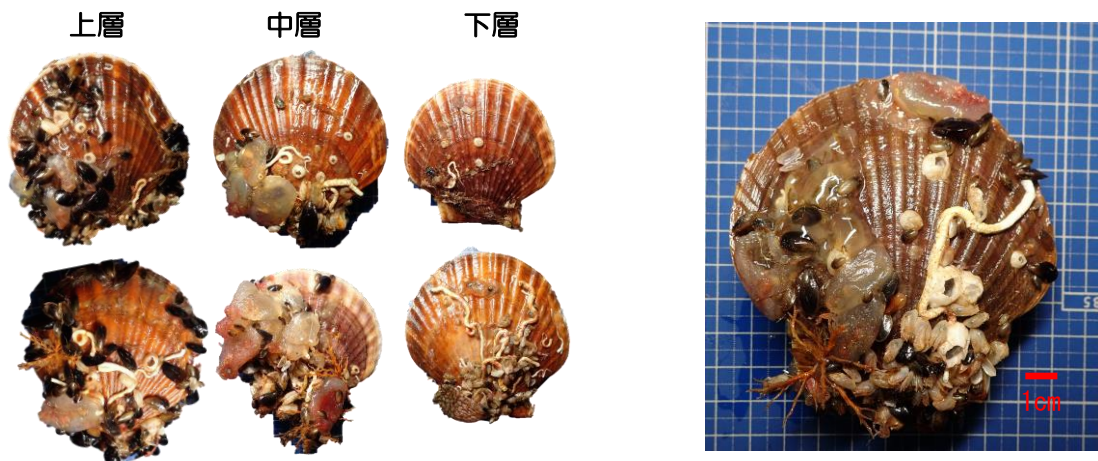
9月25日に渡島管内八雲地区において、耳吊ホタテガイ付着物の調査を行いました。

結果概要

※「平年」とは「過去10ヶ年平均」を表します。

- 耳吊りホタテガイ上のヨーロッパザラボヤの付着個体数は、8月から大きく減少しました。
- 平均付着個体数および平均付着重量は、いずれも平年の約1/10と過去最低でした。
- 5mm未満の小型個体はほとんど出現せず、新たな付着は少なくなったと考えられます。
- 今年は付着量が少ない年と考えられますが、耳吊り時期や場所により、付着量にはバラツキがあると考えられます。新たに付着する個体は少なくなっていると考えられますので、貝洗い等の対応を進めてください。

図1 ホタテガイに付着するヨーロッパザラボヤ 令和5年9月25日 八雲地区



問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 水上・夏池 TEL：0138-83-2893

※本調査および情報配信は特定非営利活動法人水産業・漁村活性化推進機構から委託された令和5年度有害生物（ザラボヤ）出現情報収集・解析及び情報提供事業で実施しています。

耳吊りホタテ貝付着物調査

【調査月日：9月25日、調査場所：八雲沖、採取数：上中下層 各5枚】

ホタテガイを上層、中層、下層から5枚ずつ抽出し、付着物を調査しました。ヨーロッパザラボヤの平均付着個体数は、ホタテガイ1枚あたり3.9個体（過去10ヶ年の平均38.2個体）、平均付着重量は同3.5g（同28.2g）と過去最低でした（表1、図1、3）。平均サイズは18.0mm（過去10ヶ年の平均16.2mm）と平年よりもやや大きめで、サイズ組成は10～30mmが主体であり、5mm未満の微小個体はほとんど出現しませんでした（図2）。

10月以降、付着個体の成長に伴って付着重量の増加が見込まれますが、今年は付着個体数が少ないことから、増加のペースは例年よりも緩やかになると考えられます（図3下）。新たに付着したとみられる小型個体がほとんど出現しておらず、今後の付着は少ないと見込まれますので、貝洗い等の対応を進めてください。

表1 付着生物調査結果（八雲地区：令和5年9月25日）

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	地区平均
全付着物重量	35.6g	25.3g	7.6g	22.8g
ヨーロッパザラボヤ	2.7g	7.0g	0.7g	3.5g
その他	33.0g	18.3g	6.9g	19.4g
ヨーロッパザラボヤ個体数	2.4個体	7.6個体	1.8個体	3.9個体
令和4年9月（R4.9.21）の個体数	9.8個体	26.0個体	36.2個体	24.0個体
令和3年9月（R3.9.23）の個体数	2.8個体	12.2個体	33.0個体	16.0個体
令和2年9月（R2.9.29）の個体数	38.2個体	56.6個体	32.8個体	42.5個体

図2 ヨーロッパザラボヤのサイズ組成（八雲地区：令和5年6～9月）

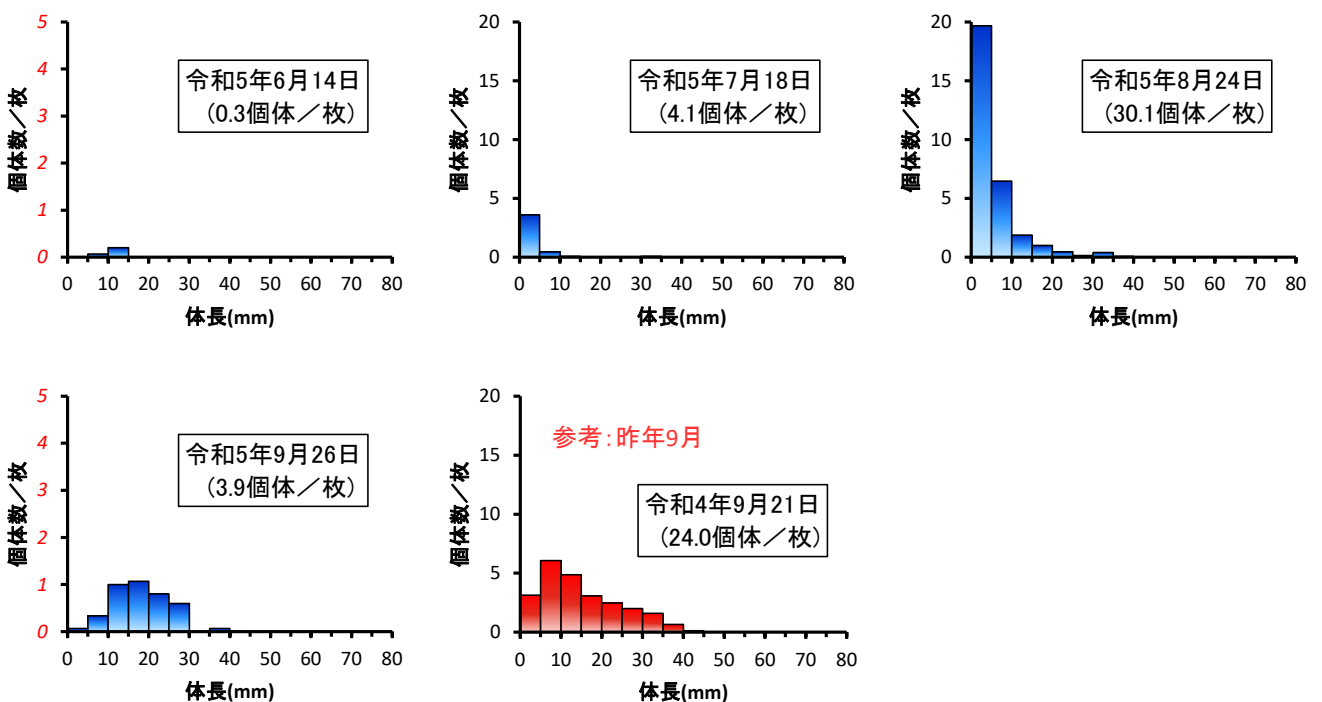
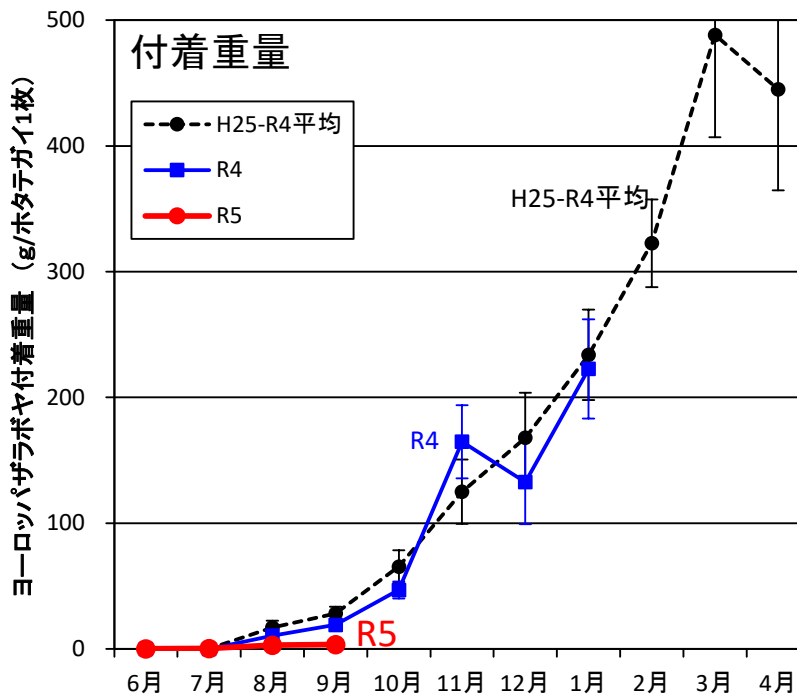
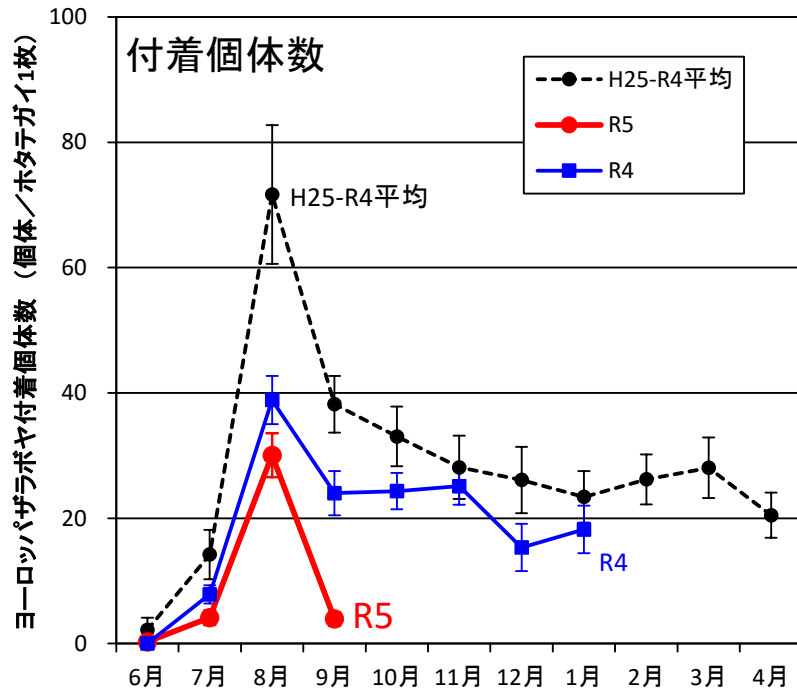


図3 ヨーロッパザラボヤの付着量（八雲地区）



上：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化
 下：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化
 各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。
 過去10ヶ年（H24～R3年）のデータでは、ヨーロッパザラボヤのホタテガイへの付着個体数は7～8月に大きく増加し、8～9月に大きく減少した後、10月以降は緩やかに減少します。付着重量は10月以降、急激に増加します。